

## 国際シンポジウム等開催状況

開催日	名称	内容	開催地
平成19年12月11日	東北大学百周年記念セミナー 「世界をリードする科学技術者の育て方 —新エリート養成への日仏の挑戦—」	グローバル化・ハイテク化が進む現代社会においては、優れた専門知識、国際性に加えて社会や組織を改革・リードする能力を備えた新たなエリートの育成が求められている。東北大学及びフランスの国立中央理工学校リヨン校（ECL）、国立応用科学院リヨン校（INSA-Lyon）に加え、日仏の産業界・教育研究界を代表する方々が、現代社会が直面する問題を解決し、指導していく能力・識見を備えたエリート科学技術者像や、その育成について論じ合った。	東京
平成19年12月13日、14日	第4回国際産学連携フォーラム —ジョイント・ラボラトリーの設置に向けて—	上記のECL, INSA-Lyonとの間で、Biosciences and Engineering, Durability Reliability in Energy and Transportation, Fabrication of Nano and Micro Scale Materials and Devices, Fluid Dynamics and Heat Transfer, Tribologyの5分野でのジョイント・ラボラトリー設置に向けて、実質的な連携構築を図るための情報交換・ディスカッションを行った。	仙台市
平成20年1月12日	東北大学百周年記念北京セミナー 「ICT技術の新時代」	北京の清華大学を会場に、情報科学研究科を中心に、北京郵電大学、中国科学院計算機研究所の教員らによりICT技術の新時代について講演を行った。	北京(中国)
平成20年3月27日	AEARU国際シンポジウム "Collaborations with Industry, City, and Public"	大学における産学官連携活動は、大学の知の活用を通じた社会貢献としての役割のみならず、教育・研究を活性化し、大学の国際競争力の強化を図る上で重要である。しかしながら国際的な産学官連携活動を行う上では、まだノウハウ、経験ともに少なく、ポリシーの不明確さ、精通した人材・法務機能・情報発信の不足などが課題としてあげられる。本シンポジウムは中国、台湾、日本での産学官連携に関する最新情報を交換することを目的として各国の大学、企業、政府機関の代表者の方々から産学官連携の取り組みに対する貴重な経験を紹介頂き、参加者間で情報を共有した。	仙台市



大連理工大学 協定締結調印式 平成19年6月16日



釜山大学校 協定締結調印式 平成19年7月26日



バンドン工科大学 協定締結調印式 平成20年6月4日

### 国際交流戦略の基本指針

2005年3月8日 東北大学

東北大学は、真理を探究して、新たな知識の創造とその普及に努め、それによって、人類が尊厳を保ちながら平和のうちに共生する社会の実現に貢献することを使命にしている。より具体的には、本学は、多様な分野の学芸が集い相互に協力・刺激し合いながら研鑽を積む総合大学として、世界と歴史の知の成果に学び、現在と未来の学問的課題を見極め、新たな知識の発見・創出と社会における公開・応用に取り組むと共に、知を以て人類社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成することを目指すものである。

本学は、既にこれまで1世紀の間、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を精神的支柱として掲げてきた。このことは、本学構成員が、開学以来一貫して、研究・教育の国際化が本学の使命・目標を達成するための不可欠の条件をなすと明確に意識してきたことを示している。

近年に目を向けると、本学は、2000年8月に国際交流を通じて世界最高水準の研究・教育拠点作りを目指すことを世界に向けて宣言した。また、2004年4月の法人化に当たり、本学は、「国際競争力のある研究・教育拠点」として発展することを主要目標に挙げた。さらに2004年11月には、本学が今後、「Tohoku University, Creating Global Excellence」(「東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します」)を標榜することを表明した。

このような宣言・表明からも明らかなように、今日、国際交流の推進は、本学の使命・目標の達成にとってますます重要な位置を占めるものとなっている。また、それ故に、今後の国際交流の立案・実施に当たっては、それを本学の使命・目標の実現に可能な限り役立てるといった戦略性が強く求められるに至っている。

したがって、本学は、今後、以下の主要目的を最大限に果たすことを基本指針にして国際交流戦略を立案・実行していかなければならない。

- (1) 国際学術ネットワークを通じた世界最高水準の研究を推進する。
- (2) 広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れて世界の発展に役立つ指導的人材を育成する。
- (3) 研究教育を国際社会に発信するとともに、国際貢献に活用する。
- (4) 上記を達成するために研究・教育基盤を強化し、本学の国際的知名度・信頼性を向上させる。